

平成 28 年度

第 61 回 長野県中学校連合教科研究会

特別活動

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	指導者・司会者・記録者・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	各校の研究の要旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
IV	研究問題と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2～4
V	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	4～5
VI	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5

I 平成 28 年度テーマ

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」

～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

II 指導者・司会者・記録者

- ・指導者 中信教育事務所指導主事 佐々木 秀 先生
- ・司会者 長野市立東北中学校教諭 吉岡 典彦 先生
- ・記録者 附属長野中学校 宮本 常德 先生
- ・世話係 附属長野中学校 越田 真二 先生

III 各校の研究の要旨

① 上田市立第三中学校 石澤 可奈子 先生

自分たちのクラスの実態を振り返り、よりよいクラスをめざしたいという意識付けをしたことで、受け身ではなく、自分たちで自分たちのクラスをよりよくしたいという積極的な話し合いにつながった学級目標決めの単元構想。

② 飯田市立緑ヶ丘中学校 中島 信一良 先生

特別活動における話し合い活動の充実させるために、今年度の緑ヶ丘中学校で取り組んできた話し合い活動の実践紹介

③ 松本市立信明中学校 熊井 雅恭 先生

誰もが安心して自己表現できる学級集団を自分たちで作ろうとする態度を育むために、自分はどうのように人とかかわっていくかを考えさせた職場体験学習での単元構想

④ 長野市立東北中学校 天野 孝太郎 先生

人とかかわることの大切さを知り、自他の立場を尊重しながら正しい判断ができる生徒を育成するための授業構想。

⑤ 附属松本中学校 北原 遼司 先生

友と思いを語り合いながら、願う集団の姿を実現していく学級目標決め・学級旗づくりの単元構想

⑥ 附属長野中学校 越田 真二 先生 宮本 常德 先生

二つに絞った学級目標案について、それぞれの目標に込めためざす姿や良さを、共通点と相違点に着目しながら分類し、相違点に焦点を当てて議論する内容を明らかにして互いの良さを伝え合う活動を位置づけた単元構想

⑦ 千曲市立埴生中学校 池森 潤 先生

差別不当性に気付き、差別をなくす意欲をもち、実践的な行動につなげていく生徒を育成するための授業構想。

8 千曲市立屋代中学校 横前 雅史 先生

学級の一人一人が互いの個性・能力を尊重し、学級の一員としてかけがえのない存在であるという自覚を高めるための授業構想。

IV 研究問題と協議内容

研究テーマに沿って、各校より提出されたレポートを各討議題に分けて協議しご指導頂きました。

討議題 1 「お互いに認め合える人間関係づくりのための話し合い活動」について

(上田第三中、附属長野中、附属松本中、緑ヶ丘中)

(1) 討議された内容

①生徒が積極的に意見を出せるための工夫や手だてについて

- ・丁寧な手順を組んでいくことを大切にしたい。〔班で一つの案を出す→多数決でベースになる案を決める→それを全体で添削していく〕などのように順を追って整理していくと、分かりやすく、意見が出しやすくなる。
- ・議題に必要感があることが大事。身近な課題に対して話し合い、話し合うことでよくなっていくことを実感させることで、話し合おうとする気持ちが高まっていく。

②話し合い活動における教師の出について

- ・進行を生徒に任せることも一つの手段。意見を集約したり、絞ったりすることを学級長がやることで力量の高まりに繋がっていく。
- ・生徒がよい意見を取り上げられるかという課題もある。教師が前時の意見を座席表にまとめ、それを活用したり、机間指導で見付けたよい意見を司会の生徒に知らせたり、困ったら先生に相談するなどのルールを作っておくこともよい。
- ・教師は進行をする生徒との事前の打ち合わせをしっかりと行い、当日は話し合いの様子を見守りながら、話し合いが停滞している班に入って助言をしたり、クラスの一員として話し合いに参加したりしてもよい。

③集団決定を行う場面での工夫について

- ・安易に多数決で決めるのではなく、個々に込めた思いを分かってもらえることが大事。分かり合えた上で、本当に目的に合っているものを選んでいくようにすると、決定に対して納得できるのではないか。自分の思いを「伝えた」という事実を大事にしていきたい。
- ・生徒に決め方を決めさせていくことも大切なこと。話し合う内容によって多数決にしたり、よいところをまとめたりしていくなど方法は多様である。生徒にとって納得できる決め方をしていくことで、その後の活動が活発になっていくように感じる。

(2) ご指導いただいた内容

- ・学校全体で取り組んでいるところがよい。学力調査の生徒質問紙から課題の焦点を絞り、全クラス、各教科で話し合い活動を実施し、効果を実感しながら先に進んでいくというPDCAサイクルを研究として位置付けていることが魅力的である。
- ・特別活動では事前指導で準備を整えることが大切。話し合いの場面で教師はできるだけ見守る立場で「この考えいいね」などの声掛けを行い、意見が出しやすくなるようなサポートをしていくとよい。
- ・付箋紙やホワイトボードなどの「思考ツール」をいつでも使える状態で置いておくことで話し合いが活発になっていく。

- ・話し合いの方法にベストなものはない。「こういう方法で話し合えば解決できるのではないか」ということを生徒自身に決め出させていきたい。教師は、折り合いを付けようとする姿を見付けて生徒に返していく役割に務め、その姿を見付けることに力を注いでいきたい。
- ・話し合うこと自体が人間関係づくりにつながり、ひいては学級経営にもつながっていく。

討議題2 「生徒会引き継ぎに向けての実践事例」について（屋代中）

「キャリア教育の実践事例」について（信明中）

（1）討議された内容

①生徒会活動引き継ぎに向けた話し合いや意欲の高め方について

- ・生徒会の役員になりたいと思っている生徒が多くいる中で、実際は役員になれる生徒となれない生徒がいる。その温度差をどう埋めていけばよいか課題。
- ・現状を可視化することは、自分たちの姿を見ることができてよい。また、その姿をもとに自己評価や他者評価しながら話し合いができてよい。
- ・自分たちの課題を見付け、「座標シート」に貼り出していくことは、引き継ぎを意識した振り返りができてよい。貼った付箋が生徒の気持ちの変容に合わせて動かせるとよい。

②自己表現ができる生徒の育成について

- ・様々な教科でホワイトボードやタブレットなどの思考ツールが取り入れられているが、そういったものを特別活動の中でも活用していくことが、自己表現の高まりに繋がる。
- ・自己表現ができる学級づくりが大切。Q-Uなどを用いて学級の実態を把握していくようにしたい。学級内のルールを確立することで、「侵害行為認知群」や「学級生活不満足群」にプロットされていた生徒たちの学級生活への安心感が高まり、自己表現がしやすくなっていくのではないかな。

（2）ご指導いただいた内容

- ・「座標シート」は自分を客観的に振り返る思考ツールとしてよい。
- ・先輩の話や映像は、効果的な場面で見せる工夫をしていきたい。
- ・学習の過程として、「つかむ」「探る」「見付ける」「決める」の流れで決定を行い、決めたことを実際に取り組み、振り返る。こういったサイクルを作り、生徒と共有しながら進め、成長している自分たちを実感していくことが大事。
- ・カリキュラムマネジメントの一つである、教科・領域の内容を横断的に結びつけていくことの実践の形を示してある。特別活動での実践を振り返り、さらに道徳の授業で「みんなで頑張ってきた集団っていいね」という感覚を味わうことで、学級のよさを実感していく。教科・領域の内容を効果的に結びつけていく実践を大切にしていきたい。
- ・学力調査の生徒質問紙やQ-Uなどのデータから学級の実態を客観的に捉え、教師の見取り（主観）との「ずれ」を確かめて、生徒の思いに寄り添いながら手だてを探っていくようにしていくとよい。

討議題3 「人権教育の実践事例」について（埴生中）

「健康教育の実践事例」について（東北中）

（1）討議された内容

①差別をなくす意欲をもち、実践的な行動につなげていく生徒の育成について

- ・「部落差別」が自分と切り離された「昔の人の話」と捉える生徒が多いことが課題。なぜ部落差別ができたのか、その背景から考えさせる事で、自分たちの生活の中にも同じ原理があることに気付き、自分たちのこととして考えていけるのではないかな。
- ・教えるだけでなく、自分たちで調査しながら学習を進めていくことが大事ではないか。扱う内容や時期を検討しながら学習させていきたい。

②男女に関する思い込み（ジェンダーバイアス）に気付いた生徒に行うべき指導について

- ・男女平等と言いつつも、現実にはレディースデーがあったり、重い荷物は男子が持ったりという差がある。男女の違いを認めた上で指導していくことが大切。
- ・男女の差を「よい」か「わるい」かという基準で問うことはしない。「これって思い込みかも」という点にどれだけ気付けるか、その感覚をどれだけ磨けるかに重点を置いて指導していくことを大切にしていきたい。

(2) ご指導いただいた内容

- ・特別活動では個人または集団の決定を行い、実行していくことが重要。「話し合い」は手段のひとつなので、その中で「こうしていきたい」ということを決め出し、実践していく過程を大切にしていきたい。
- ・どの領域で扱うかで、出口も変わる。特別活動であれば「決めて実践する」、道徳であれば「道徳的価値観の自覚」、総合であれば「探究的な学習」などといったそれぞれの特性があるので、つける力を考えながら授業をつくっていくようにしていきたい。
- ・男女の違いはあるもの。誤った認識をしてしまう自分がいることに気付いていくことが大事。それを理解した上で、どう協力できるか、どうあったらよいかを考えて、決めて、実行していくという過程を確認しながら指導していく。
- ・道徳的な扱いもできる。感じ方は人それぞれなので、感じたことを尊重し、子ども同士で共有しながら、自分の価値観を問い直していくようにしたい。

討議題4 「人間関係構築術としてのグループワークの可能性」について（東北中）

(1) 討議された内容

①コンセンサスゲームによるコミュニケーション能力の育成について

- ・コンセンサスゲームは、社会人の研修でもよく行われており、みんなで話し合うことよきや価値、一人で考えるよりみんなで考えたほうがよい結果が得られる場合が多いことを実感することができる。
- ・集団で決めることや、決定に向けて折り合いをつける技能を身につけたり、体験したりする題材や仲間づくりの題材として取り入れることができる。

(文責者 信州大学教育学部附属長野中学校 宮本 常德)

V 本年度研究会の反省と来年度の方向

平成 28 年度テーマ 「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	・共通のテーマで各校の研究が行われてよい。
○研究の主な内容と研究の成果について	・研究の成果であるレポートはあった方がよいと思う。 ・各校の実践の様子を知ることができよかった。
○研究の方法や経過について	・新 S C を意識したものに变化していかれるとよい。 ・本年度の研究を引き継ぎ、長期的に研究を進めるとよいと思う。
○研究会当日の運営について	・ゆとりのある日程だとありがたい。
○研究集録等の Web ページ掲載について	・メールを使った連絡や、ホームページから書類等をダウンロードできるシステムは便利でよいと思う。
○本年度運営全般について	・メールで事前にレポートを送付してもらえれば、各自で印刷してもってくることができるのではないかと。 ・参加費が振り込みだと手数料が発生してしまい困るという意見が学校より出されている。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	・本年度と同じ方向でよい。
○来年度の研究の趣旨	・本年度と同じ方向でよい。
○来年度の研究の方法	・授業の実践もよいが、Q-U を活用した学級作りの実践例など、幅広く情報交換ができるとよいという意見が出された。 ・教科と違い、専門に研究をしている学校や先生が少ないが、できるだけ多くの先生方に参加していただけるよう、呼びかけをしていきたい。
○その他, 改善したい点	・大がかりなレポートを出さなければならないとなると敷居が高いと感じてしまう。表紙の形式を統一し、あとのページはあるものを添付するだけでよいという形がありがたい。ただし、表紙を見てある程度の授業の概要と討議したいことがはっきりするようにしたい。

平成 29 年度テーマ (案) (継続)

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」
～かかわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ学級活動～

VI あとがき

県下各地からお集まりいただいた先生方のレポートでは、学級活動・生徒会活動・学校行事等を通して、生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の実践が多く紹介されていました。協議の場面では、発表者の取り組みに基づいて生徒の具体の姿を基に熱心に協議を深めていただき、明日からの実践に役立つ大きな成果をあげて、研究会を閉じることができました。

本年度も1分科会での開催となりましたが、先生方の積極的なご発言等により、活発な討議となりました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました指導者の佐々木秀先生、レポートをくまなくお読みいただき、綿密な司会計画により協議を深めていただきました司会の吉岡典彦先生、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の宮本常德先生に、心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方が参加され、よりよい特別活動のあるべき方向を求めて、より有意義な研究会にさせていただくことを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 越田 真二

副委員長 北原 遼司